

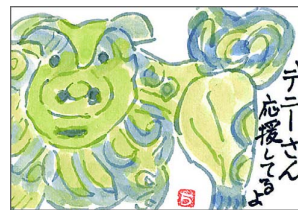
新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース
- 3面 核兵器なくそう女性のつどい/広島宣言
- 4面 新婦人60年/防災/法律相談
- 5面 憲法講座/ホット
- 6面 台風の備え/もう一品/母の歴史
- 7面 読者のページ/まんが/俳句/足のトラブル



東大阪市 佐藤千恵子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

原水爆禁止 2022年 世界大会

核兵器の使用許さない

今こそ魔絶を

原水爆禁止2022年世界大会は8月4日〜9日、「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な社会を―人類と地球の未来のために」をテーマに3年ぶりに被爆地広島と長崎で開催、全国をオンラインで結びました。感染予防の対策をとりながら現地6日間で、のべ4000人以上、オンラインのアクセス数は視聴会も含めて4300を超えました。6日には核兵器なくそう女性のつどい(オンライン)、大会期間中、国際共同行動「平和の波」が日本と世界各地でとりくまれました。

〈関連2、3、8面〉

戦争と核兵器の威嚇の中で

「あの原爆地獄の再現を、どんな理由があろうとも許すことはできません。核兵器が地球上にあることそれ自体が、非人道的なことです」

会場に広島の被爆者、児玉三智子さん(日本原水爆被害者団体協議会事務局長)の凛とした声が響き渡ります。ロシアによるウクライナ侵略と核兵器使用の威嚇が続く中、軍事同盟強化や大軍拡の流れがよまわり、核戦争が現実のものとなる緊迫した情勢のもとで迎えた世界大会。児玉さんは訴えます。「核戦争が起これば人類は滅亡しま

す。滅亡から人類を救う唯一の道は核兵器の魔絶です」

大会にはロシアとウクライナの平和活動家も参加しました。ウクライナ平和主義運動のユーリヤ・シエリアゼンコさんは

「核兵器の横暴に屈することは被爆者の苦しみを侮辱すること。戦争は人権を侵害する、すべての戦争を止めさせて平和を構築すべき」と強調しました。

フィンランドに移住して活動を続ける北西ロシア平和運動のオレグ・ポドロフさんは、ロシアがウクライナのザポリージャ原発を攻撃し占拠していることについて、「原発を破壊すれば、原爆を爆発させるのと同じ。放射能汚染を広域にまき散らすことになる」と批判。「原子力の軍事利用と平和利用の技術には区別がなく、すべてが危険

参加者からは、ロシアでは市民権がどのように剥奪されているのか、武器を持たないことを主張し続けるにはどうすればよいかなど、たくさん質問が。現地の状況や、困難な中で平和解決を求める人々の行動を学び、交流を深める場となりました。

〈2面へ〉

全国で「平和の波」行動

〈関連5面〉



▲天徳院で鐘つき後、子どもたちに絵本「いわとせんぞ」を読み聞かせ(神奈川・藤沢支部くれない班)

▲称名寺で鐘つき(奈良・三郷支部)



発言する新婦人広島県本部の安藤加奈子さん(中央)。各地から参加の会員たちもタペストリーを持って登壇、戦争反対、禁止条約参加をとアピールした(8月6日、ヒロシマデー集会)



国民平和大行進の集結集会。全国から寄せられた1万4000本を超えるペナントを掲げてピースアピール(8月4日、広島平和記念資料館前で)

主な日程

- 4日 開会総会、国際会議
 - 5日 国際会議、テーマ別集会
 - I. 米国の原爆投下をどう裁くか
 - II. 被爆者援護・連帯、被爆体験の継承と実相普及
 - III. 非核・平和、外国軍事基地のないアジア・太平洋と運動の役割
 - IV. 枯葉剤被害者支援・連帯
 - 映画『失われた時の中で』上映と坂田雅子監督とのトーク
 - V. 平和の国際ルールと戦争、核兵器魔絶―ウクライナ危機を考える
 - VI. 核共有・大軍拡・改憲ストップ、禁止条約への参加をーたたかひの交流
 - VI. 青年のひろば
 - 6日 ヒロシマデー集会
 - 9日 ナガサキデー集会
- ★核兵器なくそう女性のつどい(6日)

